

# 第5章

計画の推進にあたって

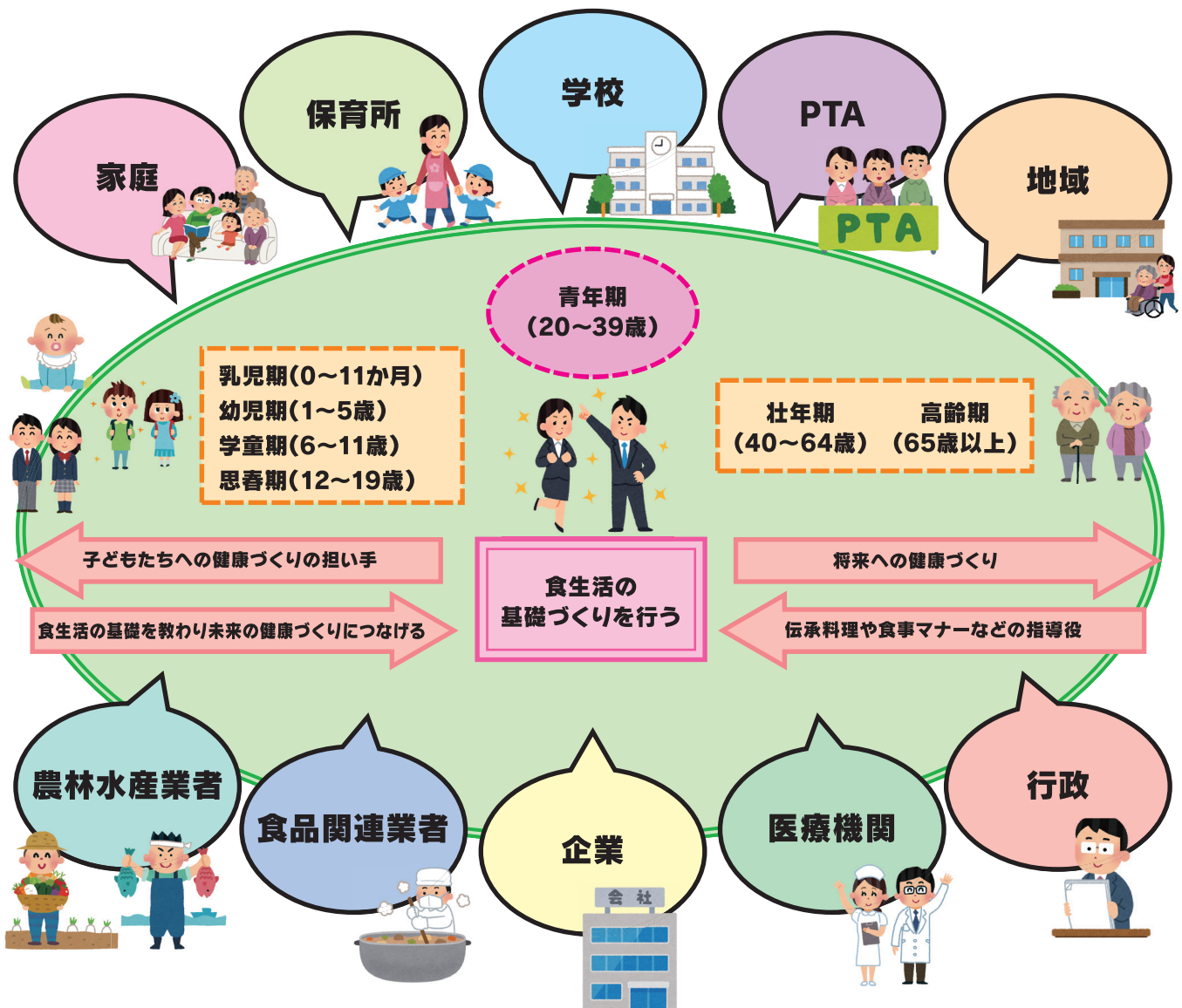
## 1. 推進体制

食をめぐる課題を解決していくためには、市民一人ひとりが食育の重要性を認識し、実践していくことが求められます。特に、「自分自身の将来に向けた健康づくり」と「子どもたちの将来の健康づくり」の担い手ともいえる若い世代への食育は重要です。若い世代が食に関する知識を深め、健全な食生活を実践できるような取り組みを推進する必要があります。

本計画の推進にあたっては、家庭や保育所、学校、地域、医療機関、農林水産業者、食品関連業者、行政などの関係機関が相互に連携を深めて推進します。

各関係機関では、会議や研修会、行事などを通じて、本計画の周知と普及に努めるほか、進捗状況の確認や食育に関する研究を行い、一体的な食育の推進を図ります。

### 推進体制のイメージ



## 2. 進行管理

本計画は、中津市健康づくり推進協議会において進捗状況を確認しながら、平成29年度から平成38年度まで推進します。期間中には中間評価を行い、今後の施策に反映させていきます。なお、本計画の見直しが必要になった場合は、随時計画の見直しを行うこととします。

## 3. 数値目標

食育を推進するため、下記の指標に数値目標を定めて取り組みます。現状の把握や達成状況の評価については、20代30代の市民を対象とした「食に関する調査」をはじめ、各種保健統計など既存情報の分析により行います。

	指標	平成27年 現状 (%)	最終目標 (%)
1	食育に関心がある20代30代の割合	73.5	90
2	毎月19日が「 <sup>*</sup> 食育の日」であることを知っている20代30代の割合	6.6	増加
3	「なかつ食育指針」を知っている20代30代の割合	3.6	増加
4	主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている20代30代の割合	朝食 29.8 昼食 49.5 夕食 85.0	40 60 90
5	食事をよく噛んで味わって食べる20代30代の割合	62.8	70
6	毎日、朝ごはんを食べる20代30代の割合	74.3	85
7	時々、自分の食生活を見直し、よりよい食生活を心がけている20代30代の割合	73.4	75
8	<sup>*</sup> メタボリックシンドロームの予防や改善のために適切な食事・定期的な運動・体重測定のいずれかを実践している20代30代の割合	19.8	25
9	20代30代男性の肥満者（BMI 25以上） <sup>*</sup> の割合	26.8	20
10	20代30代女性のやせ（BMI 18.4以下） <sup>*</sup> の割合	16.4	10
11	1日1回は家族そろって食事をする20代30代の割合	81.8	85
12	学校給食における <sup>*</sup> 地産地消食材の使用割合（市内産野菜）	18.0	30
13	中津市の特産物を知っている20代30代の割合	64.5	70
14	<sup>*</sup> 地産地消を心がけている20代30代の割合	19.7	60
15	中津市の郷土料理や行事食 <sup>*</sup> を知っている20代30代の割合	39.6	60
16	<sup>*</sup> 食生活改善推進員の活動回数	10,647回	12,000回
17	<sup>*</sup> 食生活改善推進員の活動人数	37,971人	40,000人

